

エネルギー技術対策委員会

水素・燃料電池部会

2025年度 活動計画書

2025年7月

一般財団法人 大阪科学技術センター

1. 趣 旨

燃料電池は、排熱利用による省エネルギー効果、NOx や SOx などの排出がほとんどない環境負荷低減効果、エネルギー供給の多様化・石油代替効果を有することから、わが国をはじめ、欧米諸国でも積極的な研究開発が展開されている。また、2020年10月の「2050年カーボンニュートラル宣言」以来、2023年5月には「GX推進法」や「GX脱炭素電源法」が成立、2023年6月には「水素基本戦略」が改訂され、「水素」がカーボンニュートラルの実現に必要な不可欠かつ突破口となるエネルギーの1つとして位置づけられている。また、2024年10月には「脱炭素成長型経済構造への円滑な移行のための低炭素水素等の供給及び利用の促進に関する法律（水素社会推進法）」が施行され、今後、水素（特にCO2の排出量が少ない「低炭素水素等」）の導入拡大が日本経済への貢献につながるような制度構築やインフラ整備を進めること、エネルギー安全保障の観点から国内における水素の生産・供給体制の構築（余剰再生可能エネルギーからの水素製造・利用双方への研究開発や導入）支援などを行う予定であることから、さらなる水素利用や燃料電池に係る技術開発が求められることが予想される。

定置用燃料電池のうち、家庭用ではさらなるコスト低減に向けた開発や海外への展開が図られ、業務・産業用では実用化に向けた研究開発が進められている。また、運輸分野では、燃料電池自動車も順次発売され、水素ステーションの整備・低コスト化といった課題が顕在化しているものの、水素利用・燃料電池の普及拡大が進展している。加えて、CO2フリー水素の製造・輸送・貯蔵や水素発電など、水素社会実現に向けた取り組みの範囲が拡大し、グリーンイノベーション基金（GI基金、※1）およびNEDO事業（※2）等において研究・技術開発が進められている。

水素エネルギーの利活用に期待がかかる中、水素・燃料電池部会では、日本最大級の民間による水素・燃料電池コミュニティとして、産学官の研究者・技術者相互の連携を深め、水素社会の実現、水素・燃料電池分野の発展に向けた学術ならびに技術の進歩向上に資する諸活動を展開する。

（※1）NEDOにて下記2つのプロジェクトを実施中

「大規模水素サプライチェーンの構築プロジェクト」：2021～2030年度

水素供給コスト低減、水素ガスタービン発電技術（混焼、専焼）の実現が目標

「再エネ等由来の電力を活用した水電解による水素製造プロジェクト」：2021～2030年度

水電解装置コストの一層の削減、再生可能エネルギー電源などを活用した非電力部門の脱炭素化に関するシステム全体を最適化が目標

（※2）水素社会構築技術開発事業（2014～2025年度）

2. 活動概要

2025年度は第14期2年目に該当する。上記の社会情勢に鑑み、燃料電池分野では高効率化や長寿命化に資する新技術等の開発、社会への普及および市場拡大、水素分野ではモビリティやインフラの社会実装に関する動向を把握し、水素利用技術についての理解を深め、2040年に商用化を目指している合成燃料の製造技術の確立、製造効率の向上など、次世代技術の開発状況等について調査を行う。両分野の国・自治体での施策等取組状況等についても合わせて調査し、関心の高い技術テーマの情報交流およびディスカッションを行う。また、関連する分野における海外の動向についても情報収集を行い、国内外の比較、相違点の整理を行う。

なお、定例研究会は通常年7回開催する。うち1回は公開シンポジウムとする。

回	開催	テーマ、講演候補、見学候補 等
298	5-6月	「講演会」 テーマ：水素・燃料電池技術の研究開発動向
299	7月	「見学会」 川崎地区での実証
300	8月	「講演会」 テーマ：燃料電池とその周辺技術
301	10月	「見学会」 Spring8 (FC ビームライン)
302	12月	「講演会」 テーマ：NEDO 水素燃料電池プロジェクト
303	1月	「公開シンポジウム」 テーマ：航空機分野における水素利用
304	2月	「学会トピックス」 秋季学会での発表から、より詳しく聞きたい内容をピックアップ

3. 体制

- 1) 名称 水素・燃料電池部会
2) 構成 125名（産業界36法人67名、学・官界58名）
法人委員および特別委員（個人）をもって構成し、役員として代表、副代表、特別顧問、顧問、実行委員を置く。

<役員>

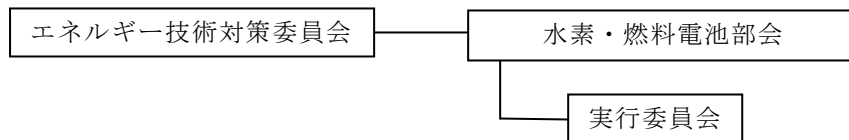
（敬称略・機関名五十音順）

代表	稲葉 稔	同志社大学 理工学部 機能分子・生命化学科 教授
副代表	山崎 修	大阪ガス(株) 先端技術研究所 マネジャー
	松井 敏明	京都大学 大学院工学研究科 物質エネルギー化学専攻 准教授
	安田 和明	(国研)産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域 電池技術研究部門 研究部門長
	小原 英夫	パナソニックホールディングス(株) GX本部 本部長
特別顧問	小久見 善八	京都大学 名誉教授
	児玉 皓雄	(株)AIRI 代表取締役会長
	村橋 俊明	元・福井工業大学 教授
	江口 浩一	京都大学 名誉教授
実行委員	辻上 博司	岩谷産業(株) 岩谷水素技術研究所 部長（水素技術研究開発担当）
	松岡 孝司	ENEOS(株) 中央技術研究所 先進技術研究所長
	岩見 潤	大阪ガスマーケティング(株) 商品技術開発部 燃料電池開発チーム マネジャー
	酒井 良典	カナデビア(株) 脱炭素化事業本部 脱炭素化システムビジネスユニット PtG技術部 水素グループ SOFC チームリーダー
	河瀬 元明	京都大学 大学院工学研究科 教授
	水畑 穰	神戸大学 大学院工学研究科 応用化学専攻 教授
	五百蔵 勉	(国研)産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域 電池技術研究部門 次世代燃料電池研究グループ 研究グループ長
	黒羽 智宏	パナソニックホールディングス(株) テクノロジー本部 グリーンイノベーションセンター 水素エネルギーデバイス開発部 主幹
	光田 憲朗	三菱電機(株) 先端技術総合研究所 開発戦略部 技術顧問

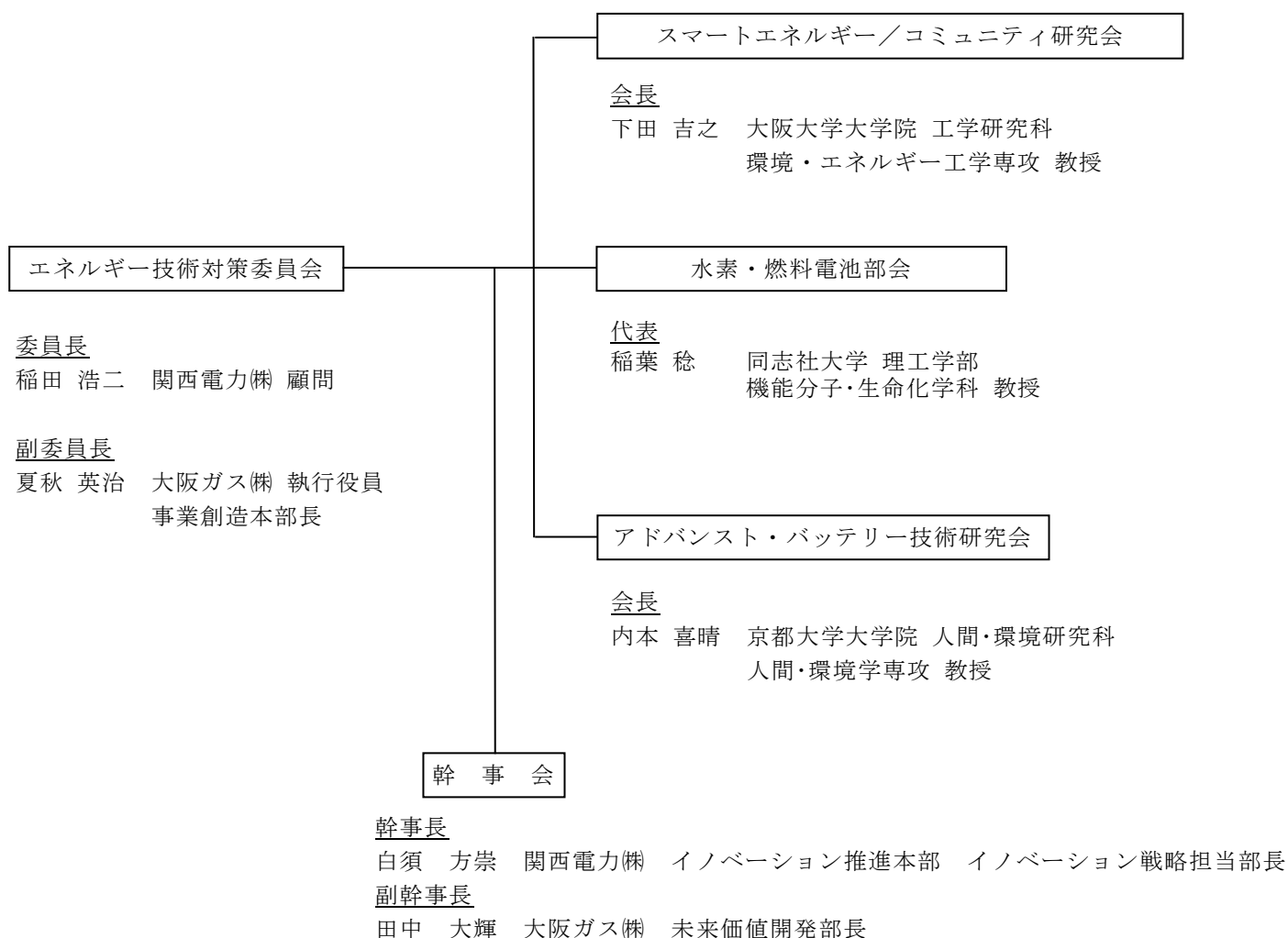
（任期：第14期〔2024～2026年度〕、所属・役職は2025年4月現在）

3) 運営組織

- ①実行委員会は事業の企画・立案ならびにその遂行にあたる。
②部会には必要に応じ、分科会、ワーキンググループ等を設置し、諸活動の展開を図ることができる。
（推進体制）



エネルギー技術対策委員会の体制



(所属・役職は2025年7月現在)

<水素・燃料電池部会の歩み>

- 1987年4月 燃料電池部会を設置
- 2001年4月 下部組織にFCH基盤技術懇談会を設置
- 2010年4月 燃料電池への取り組みのより一層の強化を目指して両会を統合し、燃料電池部会・FCH基盤技術懇談会に改組
- 2012年4月 燃料電池・FCH部会に名称変更
- 2024年4月 水素・燃料電池部会に名称変更し、現在に至る

4. 期 間

第14期活動期間（2024年4月～2027年3月）の2年目として部会活動を展開する。

活動期間	1987…2004	2005～06	2007～09	2010～11	2012…2020	2021～23	2024～26
第1～6期	(3年間/期)						
第7期		(2年間)					
第8期			(3年間)				
第9期				(2年間)			
第10～12期					(3年間/期)		
第13期						(3年間)	
第14期							(3年間)

5. 関連団体事業への協賛

①電気化学セミナー・講習会

◇主 催：電気化学会 関西支部

◇特 典：当研究会会員は協賛学協会会員扱い

②電池討論会

◇主 催：電気化学会 電池技術委員会

◇特 典：当研究会会員は協賛団体会員扱い

③その他

会員へ有益な情報を随時提供する

6. 研究経費

産業界の協賛金（年額15万円/口）を充てる。

7. 年間講演資料のとりまとめ

各研究会の配布資料を年間講演資料集として取りまとめ、会員向けにホームページ上で閲覧できるようにする。

8. 事務局（申し込み・問い合わせ先）

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4

一般財団法人 大阪科学技術センター

技術振興部 八木 廉子、澤坂 洋

TEL:06-6443-5320、FAX:06-6443-5319

E-mail: yasuko.yagi@ostec.or.jp

以 上

< 2022～2024 年度 活動実績 >

2024 年度

回(月日)	内 容
第 291 回 (6.13) 『水素・燃料電池技術の研究開発動向』 大阪科学技術センター 401 号室、オンライン	講演①「水素 燃料電池船の開発について」 岩谷産業株式会社 中央研究所 / 岩谷水素技術研究所 部長(研究企画担当) 牧平 尚久 氏 講演②「SOEC メタネーション技術による e-メタンの再生可能エネルギーキャリアおよびカーボンニュートラル燃料としての可能性」 大阪ガス株式会社 エグゼクティブフェロー エネルギー技術研究所 SOEC メタネーション開発室 統括室長 大西 久男 氏 講演③「水素ステーションの現状と課題」 日本水素ステーションネットワーク合同会社 社長 森 裕貴 氏 講演④「水素展開: 技術で勝ってビジネスでも勝つために」 株式会社テクノバ 研究部 研究第3グループ 上級主席研究員 丸田 昭輝 氏 [出席者:71 名]
第 292 回 (7.1) 『カーボンフリー燃料』 大阪科学技術センター 401 号室、オンライン	講演①「両利きのメタノール: 合成燃料、クリーン素材としてのプラットフォーム」 東洋エンジニアリング株式会社・執行役員 エンジニアリング技術統括本部 本部長代行(兼)次世代技術開拓部部长 富永 賢一 氏 講演②「ANA グループにおける CO2 排出量削減の取り組み」 全日本空輸株式会社 経営戦略室 企画部 エグゼクティブマネージャー 杉森 弘明 氏 講演③「再生可能エネルギーを利用したグリーン水素サプライチェーンの構築」 ENEOS 株式会社 先進技術研究所長 松岡 孝司 氏 企業紹介「新日本電工株式会社 会社紹介」 新日本電工株式会社 研究所 製品・技術開発グループ 次世代材料チーム・チーム長 富田 紘貴 氏 [出席者:67 名]
第 293 回 (8.6) 『CO2 分離・回収』 見学会 関西電力(株) 舞鶴発電所	舞鶴発電所、CO2 分離・回収設備 概要説明および施設見学 [出席者:18 名]
第 294 回 (10.4) 見学会 (株)神戸製鋼所 三菱重工業(株)	株式会社神戸製鋼所(ハイブリッド型水素ガス供給システム、NC チタン表面処理工場) 三菱重工業株式会社(高砂水素パーク) [出席者:23 名]
第 295 回 (12.9) 『国、自治体の取り組み』 大阪科学技術センター 700 号室、オンライン	講演①「2050 年カーボンニュートラルにむけた GI 基金事業のご紹介」 経済産業省 GX グループ GX 投資促進課 エネルギー・環境イノベーション 戦略室 産業技術総括調査官 倉谷 健太郎 氏 講演②「国際海運における GHG 関連規制および GI 基金による次世代船舶の開発状況」 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 水素・アンモニア部 次世代船舶チーム長 プロジェクトマネージャー(GI 基金/次世代船舶の開発) 川北 千春 氏 講演③「アンモニアサプライチェーンに係る取り組み」 株式会社JERA O&M・エンジニアリング戦略統括部 技術経営戦略部 部長 尾崎 亮一 氏 講演④「カーボンニュートラル(CN) 社会に向けた都市ガス業界の取り組みについて」 一般社団法人 日本ガス協会 普及部 技術開発担当部長 岡田 修一 氏 [出席者:60 名]

<p>第 296 回 (1.16) 『公開シンポジウム:カーボンニュートラルに向けた電解技術の新展開』</p> <p>大阪科学技術センター 401 号室、オンライン</p>	<p>講演①「東京ガスにおけるグリーン水素の低コスト化のための PEM 水電解セル製造技術開発の取り組み」 東京ガス株式会社 グリーントランスフォーメーションカンパニー 水素・カーボンマネジメント技術戦略部 水素製造技術開発グループ 電極材料技術チーム チームリーダー 宇根本 篤 氏</p> <p>講演②「山梨大学におけるアニオン交換膜水電解のセル評価の取り組み」 山梨大学 水素・燃料電池ナノ材料研究センター 教授 内田 誠 氏</p> <p>講演③「日本特殊陶業における SOEC 関連の取り組み」 日本特殊陶業株式会社 エネルギー事業本部 エネルギー変換事業開発部 柴田 昌宏 氏</p> <p>講演④「Honda の循環型再生エネルギーシステム技術の紹介」 株式会社本田技術研究所 宇宙開発戦略室 針生 栄次 氏</p> <p style="text-align: right;">[出席者:77 名]</p>
<p>第 297 回 (3.12) 『学会トピックス』</p> <p>大阪科学技術センター 401 号室、オンライン</p>	<p>講演①「大規模分子動力学計算による燃料電池触媒担体における物質輸送メカニズムの解明」 トヨタ自動車株式会社 電動化・環境材料技術部 材料基盤開発室 木村 将之 氏</p> <p>講演②「表面・界面構造制御による水電解電極の機能向上」 東北大学大学院環境科学研究科 和田山研究室 准教授 轟 直人 氏</p> <p>講演③「三菱重工業における円筒焼結型 SOEC セル開発の取り組み」 三菱重工業株式会社 総合研究所 エナジー研究推進部 エナジーシステム第二研究室 末森 重徳 氏</p> <p style="text-align: right;">[出席者:30 名]</p>

2023 年度

回(月日)	内 容
<p>第 284 回 (7.10)</p> <p>『SOEC、PCFC プロトン伝導体』</p> <p>大阪科学技術センター 404 号室、オンライン</p>	<p>講演①「パナソニックにおけるプロトン伝導セラミック燃料電池開発」 パナソニックホールディングス(株) 技術部門 テクノロジー本部 マテリアル応用技術センター 3 部 3 課 山内 孝祐 氏</p> <p>講演②「低温作動化を目指した PCFC 開発とインフォマティクスの活用」 宮崎大学 工学教育研究部 環境・エネルギー工学研究センター 応用物質化学コース/環境ロボティクス学科 教授 奥山 勇治 氏</p> <p>講演③「高効率化に向けたプロトン伝導性セラミック燃料電池のセルおよびシステムデザイン」 東京工業大学 環境・社会理工学院 融合理工学系 エネルギーコース 教授 大友 順一郎 氏</p> <p>企業紹介「日清紡ホールディングス株式会社 会社紹介」 日清紡ホールディングス(株) 新規事業開発本部 企画室 湯山 佳菜子 氏 総合質疑</p> <p style="text-align: right;">[出席者:58 名]</p>
<p>第 285 回 (8.2~3)</p> <p>『見学会:米倉山、山梨大学 水素・燃料電池ナノ材料研究センター』</p>	<p>概要説明:やまなしモデル P2G システムの導入拡大に向けた取り組み 山梨県 企業局 新エネルギーシステム推進室 室長 宮崎 和也 氏</p> <p>見学:次世代エネルギーシステム研究開発ビレッジ(Nesrad)、FC-Cubic ほか</p> <p>概要説明:山梨大学における水素・燃料電池研究の取り組み —水素の製造・貯蔵・利用における新産業創出を目指して— 山梨大学 水素・燃料電池ナノ材料研究センター長 飯山 明裕 氏</p> <p>講演:水素技術の開発動向 —グリーン水素の普及に向けて— 山梨大学 水素・燃料電池ナノ材料研究センター長 飯山 明裕 氏</p> <p>見学:水素・燃料電池ナノ材料研究センター内各施設</p> <p style="text-align: right;">[出席者:25 名]</p>

<p>第 286 回 (9.28)</p> <p>『水素製造・利用と Power to Chemicals』</p> <p>大阪科学技術センター 403 号室、オンライン</p>	<p>講演①「カーボンニュートラル実現に貢献する水素エンジン開発」 トヨタ自動車(株) CN 開発部 CN エネルギー開発室 グループ長 大村 哲生 氏</p> <p>講演②「Power to Chemicals(P2C)を実現するための CO2 電解技術」 東芝エネルギーシステムズ(株) エネルギーアグリゲーション事業部 シニアフェロー 水口 浩司 氏</p> <p>講演③「水素社会の必要性和アニオン交換膜型水電解」 東京工業大学 科学技術創成研究院 化学生命科学研究所 教授 山口 猛央 氏</p> <p>企業紹介「高機能素材向け熱処理設備のご紹介」 中外炉工業(株) 堺事業所 熱処理事業本部 開発部 神田 宏 氏</p> <p>[出席者:61 名]</p>
<p>第 287 回 (10.31)</p> <p>『見学会:YANMAR CLEAN ENERGY SITE』</p>	<p>講演①「船舶への水素燃料電池の展開～ヤンマーにおける取組み～」 ヤンマーホールディングス(株) 技術本部中央研究所 丸山 剛広 氏</p> <p>見学:CLEAN ENERGY SITE</p> <p>[出席者:21 名]</p>
<p>第 288 回 (12.25)</p> <p>『GX 実現に向けた先進的な取組みの紹介』</p> <p>大阪科学技術センター 404 号室、オンライン</p>	<p>「3 研究会合同講演会」として実施。</p> <p>講演①「秋田港・能代港洋上風力発電事業のご紹介」 丸紅洋上風力開発(株) 運営管理部長 竹内 浩 氏</p> <p>講演②「純水素燃料電池の複数台連携システム」 パナソニックホールディングス(株) プラットフォーム本部 エネルギー事業開発室 水素燃料電池 PJ PL 金子 泰 氏</p> <p>講演③「全固体リチウムイオン電池の宇宙実証」 日立造船(株) 開発本部 電池事業推進室 電池開発グループ グループ長 西浦 崇介 氏</p> <p>[出席者:33 名]</p>
<p>第 289 回 (1.26)</p> <p>『公開シンポジウム:水素利用技術』</p> <p>大阪科学技術センター 401 号室、オンライン</p>	<p>講演①「水素社会実現に向けた我が国の政策について」 経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 水素・アンモニア課 水素技術専門職 西川 慶 氏</p> <p>講演②「日本鉄鋼業におけるカーボンニュートラルへの取り組みと課題」 日本製鉄(株) 顧問 村上 英樹 氏</p> <p>講演③「Honda の燃料電池開発 ～多用途展開への取り組み～」 (株)本田技術研究所 先進パワーユニット・エネルギー研究所 エネルギー ユニット開発室 第2ブロック チーフエンジニア 斗ヶ沢 秀一 氏</p> <p>講演④「カーボンニュートラルの達成に向けた水素・アンモニア焚きガスタービンの取組み」 三菱重工業(株) ガスタービン技術部 技監・技師長 谷村 聡 氏</p> <p>[出席者:88 名]</p>
<p>第 290 回 (3.25)</p> <p>『学会トピックス』</p> <p>大阪科学技術センター 403 号室、オンライン</p>	<p>講演①「燃料電池触媒インク内凝集構造の溶媒親水性依存性の解析」 豊田中央研究所 燃料電池研究領域 吉野 修平 氏</p> <p>講演②「NEDO PEFC 評価解析プラットフォームでの発電評価プロトコルと市販触媒評価」 山梨県産業技術センター 三神 武文 氏</p> <p>講演③「産総研 GZR での SOFC/SOEC 研究」 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 ゼロエミッション国際共同研究センター 電気化学デバイス基礎研究チーム (兼) 省エネルギー研究部門 エネルギー変換技術グループ 岸本 治夫 氏</p> <p>[出席者:50 名]</p>

2022 年度

回(月日)	内 容
第 277 回 (6.6) 『モビリティに関する水素・燃料電池技術の動向』 大阪科学技術センター 405 号室、オンライン	講演①「水素ハイブリッド電車 HYBARI と JR 東日本での研究開発」 東日本旅客鉄道(株) 技術イノベーション推進本部 技術戦略部門 部長 大泉 正一 氏 講演②「国際水素サプライチェーンの実現に向けた液化水素運搬船“すいそ ふろんていあ”による実証試験の状況」 川崎重工業(株) 水素戦略本部 プロジェクト総括部 パイロット推進部 二課 主事 恵美 雄一 氏 講演③「小型無人航空機(ドローン)の現状と燃料電池への期待」 (国研)産業技術総合研究所 材料・化学領域 極限機能材料研究部門 固体イオニクス材料グループ 研究グループ長 鷲見 裕史 氏 企業紹介「デノラ・ペルメレックの紹介」 デノラ・ペルメレック(株) Marketing and Business Development Business Development Manager 安部 洋 氏 [出席者:106 名]
第 278 回 (7.4) 『見学会:純水素型燃料電池を活用した RE100 化ソリューション実証設備』 パナソニックホールディングス(株) 草津工場	講演①「パナソニック燃料電池事業の概要説明」 パナソニック(株) エレクトリックワークス社 スマートエネルギーシステム事業部 燃料電池水素事業総括 加藤 正雄 氏 講演②「RE100 化ソリューション実証設備に関する説明」 パナソニック(株) エレクトリックワークス社 スマートエネルギーシステム事業部 草津工場長 高田 泰治 氏 見学「RE100 化ソリューション実証設備、燃料電池ショールーム」 総合質疑 [出席者:18 名]
第 279 回 (8.24) 『国・自治体の取組み』 オンライン開催	講演①「水素利活用に向けた動向」 (国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構 スマートコミュニティ・エネルギーシステム部 ストラテジーアーキテクト(燃料電池・水素分野担当) 大平 英二 氏 講演②「2025 年大阪・関西万博における水素利活用等による脱炭素の取り組み」 (公社)2025 年日本国際博覧会協会 企画局 持続可能性部事業課 課長代理 折笠 琢磨 氏 講演③「カーボンニュートラル社会の実現に向けた「やまなしモデル P2G」事業への取り組み」 山梨県 企業局 電気課 新エネルギーシステム推進室 室長 宮崎 和也 氏 企業紹介「DIC(株)の会社紹介」 DIC(株) R&D 統括本部 サイエнтиスト 加藤 慎治 氏 新事業統括本部 マネジャー 河村 香 氏 総合質疑 [出席者:59 名]
第 280 回 (10.17) 『見学会:セラミックスの作成プロセス、材料評価の装置』 (国研)産業技術総合研究所 中部センター	講演①「産総研中部センターの概要紹介」 (国研)産業技術総合研究所 中部センター 所長 松原 一郎 氏 講演②「マテリアル・プロセスイノベーション(MPI)プラットフォームの概要とプロセス・インフォマティクスの研究事例紹介」 (国研)産業技術総合研究所 中部センター 所長 松原 一郎 氏 見学「MPI 装置、中部センター内の展示物」 総合質疑 [出席者:20 名]

<p>第 281 回 (12.22) 『SOEC を使った合成燃料』</p> <p>大阪科学技術センター 401 号室、オンライン</p>	<p>講演①「東芝エネルギーシステムズにおける SOEC に関する研究開発の取組み」 東芝エネルギーシステムズ(株) エネルギーアプリケーション事業部 燃料電池設計部 フェロー 吉野 正人 氏</p> <p>講演②「SOEC メタネーション技術革新による e-methane(合成メタン) 高効率製造への挑戦」 大阪ガス(株) エグゼクティブフェロー エネルギー技術研究所 SOEC メタネーション開発室 統括室長 大西 久男 氏</p> <p>講演③「固体酸化物形電解セルを用いた液体合成燃料製造技術の研究開発」 (国研)産業技術総合研究所 省エネルギー研究部門 熱流体システムグループ 主任研究員 田中 洋平 氏</p> <p>企業④紹介「(公財)若狭湾エネルギー研究センターの紹介」 (公財)若狭湾エネルギー研究センター 研究開発部 エネルギー開発グループ グループリーダー 主任研究員 生駒 賢二 氏</p> <p>総合質疑</p> <p style="text-align: right;">[出席者:61 名]</p>
<p>第 282 回 (1.26) 『公開シンポジウム:カーボンニュートラル社会の実現に向けた燃料』</p> <p>大阪科学技術センター 中ホール、オンライン</p>	<p>講演①「国際水素サプライチェーン構築に向けた取組みと水素事業展開」 川崎重工業(株) 技術総括部 技術総括部長/理事 森本 勝哉 氏</p> <p>講演②「アルカリ水電解システムによる大規模な水素製造への取組み」 旭化成(株) 環境ソリューション事業本部 グリーンソリューションプロジェクト クリーンエネルギープロジェクト長 磯部 安秀 氏</p> <p>講演③「船舶燃料としてのアンモニア、アンモニア焚き船の開発と実証(仮)」 (株)商船三井 エネルギー営業本部 エネルギー営業戦略部・燃料部 専任部長(代替燃料担当) 田口 真一 氏 エネルギー営業戦略部 石川 博登 氏</p> <p>講演④「カーボンニュートラルな合成燃料の製造方法と課題」 成蹊大学 理工学部 理工学科 教授 里川 重夫 氏</p> <p>総合質疑</p> <p style="text-align: right;">[出席者:100 名]</p>
<p>第 283 回 (3.1) 『学会トピックス』</p> <p>大阪科学技術センター 404 号室、オンライン</p>	<p>講演①「Pt 系触媒へのメラミン修飾による ORR 活性と耐久性向上および電池特性向上に向けたメソポーラスカーボン担体の検討」 同志社大学 理工学部 電気化学教室 研究支援員 大門 英夫 氏</p> <p>講演②「プロトン伝導ナノファイバー不織布を有する空気極触媒層の性能評価」 (株)豊田中央研究所 燃料電池研究領域 研究員 吉野 修平 氏</p> <p>講演③「燃料電池 (FC) システムの多用途展開への活用を目指した統合システムシミュレーターの開発」 京都大学大学院 化学工学専攻 反応工学分野(河瀬研究室)特定助教 トヨタ自動車(株) CV カンパニー 水素基盤開発部 先端開発・技術連系グループ 主幹 長谷川 茂樹 氏</p> <p>総合質疑</p> <p style="text-align: right;">[出席者:28 名]</p>

年 月 日

水素・燃料電池部会 参加申込書

一般財団法人大阪科学技術センター
エネルギー技術対策委員会
委員長 稲田 浩二 様

水素・燃料電池部会（エネルギー技術対策委員会事業）の趣旨に賛同し、下記により参加申込を致します。

記

1. 研究会委員（2名以内）を登録します。

会社名・機関名 _____

①窓口委員（貴社への連絡窓口を担当いただける方をご記入下さい）

ふりがな

・氏 名 _____

・所属・役職名 _____

・住 所 〒 _____

・TEL / FAX _____

・E-mail _____

②委 員

ふりがな

・氏 名 _____

・所属・役職名 _____

・住 所 〒 _____

・TEL / FAX _____

・E-mail _____

2. 協賛金を拠出します。

協賛金 金 _____万円也 [年額 15万円] (支払予定：_____月ごろ)

※お申込みに関する情報については当財団の事業活動のご案内、ご連絡を差し上げる目的以外には使用致しません。
※特にお申出のない限り、継続参加の取り扱いとさせていただきますのでご了承下さい。

※当財団の各委員会・研究会等の委員名簿等については、当財団の「プライバシーポリシー」に基づき、適切に取り扱います。詳しくは、下記当財団ホームページをご覧ください。

⇒https://www.ostec.or.jp/ostec_wp/pdf/privacy.pdf